見るスポーツとしての陸上競技の魅力に関する研究

A Study on the Attractiveness of Track & Field as a Spectator Sport

1K08B117-7　　高橋 健太

指導教員　主査　松岡 宏高　先生　　副査　木村 和彦　先生

【目的】

余暇活動のひとつとして、スポーツ観戦が国民生活に浸透してきた昨今では、熱狂的なスポーツファンに限らず、一般の大衆もテレビを通して日常的にスポーツを見るようになった。SSF 笹川スポーツ財団の「スポーツライフ・データ 2010」の報告によると、我が国の成人のうち、年に 1 回以上テレビスポーツ観戦を行う者の割合は 94.5%にも上っている。競技として長い歴史を持ち欧米での人気も高い陸上競技についても、世界で活躍できる日本人が登場してきたことなどから、日本における注目度が高まりつつある。しかし近年は、メディアの多様化の影響から、これまでにない新しいスポーツ観戦のカタチが生まれるなど、スポーツ観戦を取り巻く環境は著しく変化しようとしている。この状況の中で、改めておもしろさや楽しさといった、スポーツの根本的な魅力を再認識することは、この先時代に即したより魅力的なスポーツ観戦環境を作り出していくうえでの基礎となる、重要なことである。

そこで本研究では、陸上競技を取り上げ、野球やサッカーとの比較などを通して、その見るスポーツとしての魅力を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

2011 年 10 月 31 日（月）および 2011 年 11 月 10 日（木）に首都圏にある W 大学および R 大学で行われた講義に出席した学生を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は調査員がその場で回収した。

陸上競技、野球、そしてサッカーの見るスポーツとしての魅力に関して、スポーツビジネスを選考する学生 8 人を対象に事前に行った、自由記述形式の質問を用いた予備調査をもとに作成した測定尺度項目計 26 項目から、それぞれ「1：全くそう思わない」から「7：非常にそう思う」までの 7 段階で測定した。本研究ではこれらの項目から因子は作成せず、分析は項目ごとに行うこととした。さらに、性別や年齢、過去の競技経験や直接観戦経験を尋ねる項目を設定した。

【結果】

得られた有効回答数は 131 部であった。陸上競技の見るスポーツとしての魅力については、「選手の高いパフォーマンス（M=5.93）」が最も高い値を示し、その後には「選手の高い身体能力（M=5.87）」「注目選手やチームの対決（M=5.78）」と続いた。野球は「注目選手やチームの対決（M=5.90）」が最も高く、続いて「予想外の試合展開（M=5.79）」、「最後まで勝敗の行方がわからない試合展開（M=5.69）」となった。サッカーについては、「注目選手やチームの対決（M=5.85）」「選手の高い技術（M=5.81）」そして「選手の高いパフォーマンス（M=5.73）」などが高い値となった。この 3 競技に共通して「注目選手やチームの対決」が高く、スポーツ観戦の魅力を高める重要な要素であることがわかった。また、各項目の平均値を 3 競技間で比較したところ、陸上競技に関して「選手の真剣な姿」「選手の肉体美」「選手の高い身体能力」「選手の高いパフォーマンス」そして「選手やチームの記録への挑戦」の 5 項目が他の 2 種目より統計的に有意に高いことが確認された。

陸上競技についての結果を、男女別で比較すると、男性のほうが選手と自分の能力を比較して、驚きを得ることに、魅力を感じていた。また、過去に陸上競技を行ったことがある人は、多くの項目で高い値を示し、特に試合を分析したり、予想外の展開や選手の技術に驚きや高揚感を得ることにより大きな魅力を感じている傾向があった。さらに、陸上競技を直接観戦したことのある人は、試合の分析や試合への没入感に魅力を感じていることもわかった。

【考察】

見るスポーツとしての陸上競技の魅力は、選手が競技に臨む姿や高い能力、記録へと挑戦することといった選手個人の魅力と関係が深いことが明らかとなった。逆に、野球やサッカーで高い値を示した試合の分析や予想のつかない試合展開などについては、魅力としてはあまりとらえられていないこともわかった。また、野球とサッカーでは、ともに予想できないドラマチックな展開の魅力が高く、こうした競技性こそ、多くの人気が集まる要因のひとつだと思われる。

スポーツ観戦環境が急速に変化する中、これからもスポーツが人びとからの人気を獲得し、スポーツ観戦市場が拡大しつづけるためにも、こうした競技ごとの魅力の特徴をよく理解したうえで、観戦者がスポーツのおもしろさを最大限享受できる環境を作り出すことが求められる。